



おおらか さわやか きわやかな人を育む大崎の教育

問 教育委員会 ☎ 476-1111 (401)

◆第一回大崎町立中学校統合準備委員会が開催されました。

町内の3中学校を1校に統合し、新生『大崎中学校』の平成26年4月の開校に向けて、校章や校歌、制服をはじめ、様々な事柄について決定を行う『大崎町立中学校統合準備委員会』（以下、準備委員会）が平成24年5月1日（火）に、中央公民館大ホールにて開催されました。

準備委員会は、教育や地域に関わる23名の委員によって構成され、詳細について専門的に協議を行う専門部会（総務・生活指導・教務・PTA・保健体育の5部会）の案について、検討・決定することになります。

第1回準備委員会では、委員に委嘱状が交付され、互選により委員長に原口博光氏（菱田校区公民分館長）、副委員長に市坪新悟氏（大崎町PTA連絡協議会長）が選任されました。

また、各専門部会もそれぞれ5月中に第1回の会議が開催され、今後は、様々な事項について協議し、案を作成していくこととなります。



▲代表で委嘱状交付を受ける大崎小学校PTA会長の隈本信昭氏

まぶい窓おしえの庭 NO.7

つながりからかかわりへ

大崎町退職校長会 杉村 茂夫

中学女子のバレーボールの指導をして感じることは、拾って、上げて、打つという『つながり』だけのバレーである。これも大切であるが、必要なのは、一球一球が心を打つプレーでなければならないということである。一球の中に周りに感謝し、思いやりの気持ちで、次につないでいくことで『かかわり』のある感動のバレーとなるのである。

今、メールでの交換はあるが、これは以前タレントが使っていた言葉の「友達の友達は皆友達」的なもののように思える。心を交流させて、心と心の結びつきを求めるより、形式的・外形的つながりを持つてよいということになる。一緒に遊ぶが、心の交流は無い。人と仲良くすることは、つながることだという意識しかないのではなかろうか。

家庭生活では一緒に暮らしているが、家族のつながりだけで、家族相互の結びつきが薄れているような気がする。親子で農作業をすることで、その厳しさ、親へのありがたさ、収穫期には、喜びや達成感などで親子の絆が強くなり、子どもは自分が認められることを知り、何ができるかを考えるようになる。生きた勉強である。子どもからは両親の働く姿が、今は見えていないのではないか。一緒に苦労して「やっぱりお父さん、お母さんはすごい。」と感心するような共同の機会が少なくなっている。従って、大人の尊敬すべき力を見る機会が無い。大人と子どもの生活が別々になっている。『家』とは家族で築くものであり、そのプロセスの中で子どもは色々と感じ、学び、立派に成長していくのである。

『家庭』という字は『家』と『庭』と書き、『心の庭』である。『家庭に心の庭』を看板に、かかわりの深い家庭を作りたいものである。



夜行性なので 夜の水銀灯が狙い目じゃ！

ところで、カブトムシ どこにいるのかな？



都市部には、カブトムシ いないからね～

